

2025 年度

名古屋市立大学

進化型実務家教員養成プログラム

【専門コース(減災・医療)】

案内

プログラム設置研究科 <キャンパス>	担当窓口
医学研究科 <桜山(川澄)キャンパス>	教務企画室 TEEP 事務局 (滝子キャンパス内) Mail : teep_office@sec.nagoya-cu.ac.jp Tel : 052-872-5882 ※基本としてメールにてお問い合わせください。 〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1

<進化型実務家教員養成履修証明プログラムについて>

「進化型実務家教員養成プログラム (TEEP: Training for Emerging Educators and Practitioners : 以下 TEEP という)」は、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、高知県立大学、中京大学が連携して行う履修証明プログラムです。

TEEP は単に実務経験を大学等で語る人材を育成するのではなく、高度化・複雑化した社会の動向や最先端の技術等を学生等に分かり易く解説し、課題解決に取り組める教育をする役割を担う、高度専門人材を育成することを目的としています。

TEEP には「基本コース」と「専門コース」があります。「基本コース」では、進化型実務家教員になるために必要不可欠な能力の修得を目指します。「専門コース」は、各自の業種・専門性に合わせて視野を広げ、より専門性を高めることを目指します。

<減災・医療コースについて>

減災・医療コースでは、減災・医療の専門領域を学際領域とともに教え、関連した基礎知識と技能を持ちリーダーシップを発揮できる高度専門人材を育成します。また、災害時に超急性期から慢性期・復興期まで多職種と連携して対応でき、人的・物的資源を効率良

く活用し運用できる人材を育てるために、必要不可欠な能力養成等を内容としたカリキュラムを提供するものです。

専門コース(減災・医療)を修了後に、基本コースを受講することも可能です。

1. 募集期間

名古屋市立大学科目等履修生出願要項の出願書類提出期間と同じ

2. 募集定員・出願資格

募集定員 5名

出願資格 医学研究科科目等履修生受入れ授業科目ごとに定められた出願資格を満たす者で、以下の①の条件を満たす者

- ①医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、公認心理師、栄養士、救急救命士、消防士、警察官、自治体職員、一般企業災害担当者、大学院生等の職種で一定の実務経験を持つ者。

3. 出願方法

出願 名古屋市立大学大学院 医学研究科 前期開講科目、後期開講科目 同時に科目等履修生へ出願する。

ただし、基本コース修了後、後期からの受講を希望する場合は、後期開講科目のみ出願し、翌年度、前期開講科目を出願する。

(入学検定料 9,800円)

選考 書類選考、面接選考

※出願方法については、科目等履修生出願要項参照。

※受講が決定したら、岐阜薬科大学大学院 聴講生申請手続きが必要。

(最終学歴の証明書が必要となるため、出願時に2部用意することを推奨)

4. 受講科目

● 名古屋市立大学

科目名 担当教員	開講 実施方法	概要
減災・医療学概論 服部友紀	前期 オンライン	救急医療、災害医療概論について学ぶ。また東日本大震災、巨大台風、新型コロナウイルス感染症といった「大災害」に実際に対応してきた救急・災害医、内科医、産婦人科医、看護師、薬剤師が、現場経験と今後の展望について各視点から講義を行う。

減災・医療学特論Ⅰ 笹野寛	前期 オンライン	災害及び急性期医療に関する緊急事態に対応するため、心肺蘇生法、中毒・熱傷の管理、気道管理法、外傷の初期対応等、知識やスキルを修得する。また、災害医療体制におけるチームの中での役割を理解し、減災・医療での多職種連携の意義を理解する。
減災・医療学特論Ⅱ 松嶋麻子	後期 オンライン	(1)自然災害からマスクギャザリングまで多様な災害医療の実際を学ぶ。 (2)災害医療について専門的な知識を習得し、災害医療を担う多様な職種の役割を考える。 (3)減災のための日常の備えや BCP (business continuing plan) 作成に中心的な役割を担えるようにする。

● 岐阜薬科大学

科目名 担当教員	開講 実施方法	概要
最新医療情報学 専門薬剤師特論 (PBL 演習) 林 秀樹	通年 (前期 1 回、 後期 1 回の 集中講義) 対面	・ 東日本大震災の被災地で活動した医療従事者の話を聞き、現地での工夫や連携の方法を学ぶ。また、「クリニカル・クエスト (現場で抱く疑問)」を「リサーチ・クエスト (研究テーマ)」として構造化していく演習を行う。 ・ 大規模災害で被災地に派遣されたモバイルファーマシー (以下 MP) を想定し、MP-MP 間の医療用医薬品搬送におけるドローンの有用性の検証など、災害薬学に関する新たな研究を体験できる実習を行う。

5. 受講に関する留意事項

- 各科目の評価は科目担当教員が行います。
- 選択科目のシラバス (講義概要) および授業時間割は、名古屋市立大学公式 HP のシラバス公開システム (外部公開用) にて一部確認ができます。(掲載されていないものについては、TEEP 事務局へお尋ねください)
- 講義 (オンライン型、対面型問わず) では資料の配布、課題提出などを web 上で実施する場合があります。パソコンと通信環境をあらかじめご準備ください。
- 新型コロナウイルス流行状況によっては、授業実施方法を変更することがあります。
- 岐阜薬科大学での PBL 演習を受講するために、岐阜薬科大学への聴講生申請 (3 月受付のみ) が必要です。(費用は授業料のみ、入学金、検定料はかかりませんが、フィールドワークの旅費等実費は自己負担となります)

6. 修了要件

次の①～③をすべて満たすこと。

- ① 所定の3科目の単位を修得すること。
- ② 岐阜薬科大学のPBL演習1科目を履修したことを証明されること。
- ③ 実務領域診断カルテを用いた学習成果の評価で、実務家教員のコンピテンシーを修得できたと判定されること。

7. 受講料

142,600円（名古屋市住民等以外の場合は152,600円）

※入学料、学生教育研究災害傷害保険料、科目等履修生としての授業料および
岐阜薬科大学大学院の聴講生としての授業料を含みます。

※別途、PBL演習の旅費がかかります。

※「名古屋市住民等」については、名古屋市立大学科目等履修生出願要項参照。

8. その他

本プログラムの修了が認められたものには、「進化型実務家教員養成プログラム
専門コース（減災・医療）」の履修証明書を発行します。

以上